

## スバルビジターセンター

走りの系譜と  
モータリゼーションの起爆剤

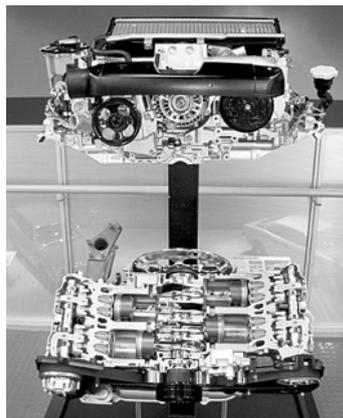


「スバルビジターセンター」は富士重工業（竹中恭二社長）が、同社の自動車事業スバルオートモーティブビジネスの主力生産拠点である群馬製作所矢島工場（群馬県太田市）に創立 50 周年を記念し開設した展示施設。

同センターは、工場見学などで矢島工場へ来訪するお客様に、スバルのブランドフィロソフィ（企業哲学）やアイデンティティ（独自性）をわかりやすく説明するとともに、スバルの歴史や個性的な技術を紹介している。

地上 2 階建て、延床面積 3, 203 ㎡ の建物で、スバルの代表的な技術を展示する吹き抜けのエントランスホール、204 名が一度に着席することができるゲストホール、スバルのクルマを最大 14 台展示することも可能な多目的スペースである展示ホール、スバルの個性的な技術を学ぶためのテクノラボ、スバルの環境への取り組みを紹介しているリサイクルラボなどを通じて、スバル車の製造にかかわる展示が行われている。

なかでも大きくスペースを取っている「展示ホール」では、スバル製往年の名車・傑作車が並んでいる。これらは全て公道を走行できるよう点検整備されており、実際に工場敷地内を走行することもあるという。我々自整業者は一般観覧者と比べ、展示されている車をみでの感慨は深い。スバル 360（てんとう虫）をはじめ、サンバー、R 2（昨年 12 月には同名の新型軽自動車が発売された）という整備屋



「ボクサーエンジン」のカットモデル



まず、入場者を迎えてくれるのはスバルの特徴である 4WD とボクサーエンジン、そして飛行機の翼をイメージしたオブジェ。

なら思い出が一つ二つ必ずある「クルマたち」がそこに待っているのだ。

スバルの歴代の車や世界記録（区間最高時速維持等）を樹立した車、スバルの個性的な技術や環境への取り組みなどを展示する「スバルビジターセンター」、自整業に携わる皆様も悠然と並ぶ名車を眺めては、いろいろな整備にまつわる苦労話や思い出を語ってみてはいかがだろうか。



スバル 360（通称：てんとう虫）の石膏モデル。スバル 360 は線図から模型をつくるのではなく、石膏モデルから線図を起こすという一般とは逆の工程で製作進行された。通常は破棄される石膏モデルがこのようなに残されるのはまれ。



## ●スバルビジターセンター●



スバル製往年の名車・傑作車が並ぶ展示室。これらは全て自走できる状態で保管されている。「自動車は走れなければただの鉄の固まりですから」と職員の方は語った。



スバル360(てんとつ虫)、サンバ1といった旧友(旧敵?)が我々を待っている。



スバルと言えば「ラリー」。車両はもとより、トロフィーも展示されている。モータースポーツの息吹を感じることができ、スバルファンならずとも胸が躍る。



幻の車「P-1」。富士自動車工業(現在の富士重工業の前身)が昭和29年に試作1号車を完成させ、翌年には生産車が誕生。1500cc、6人乗り4ドアセダンで、「モノコックボディ」「独立懸架方式」など当時としては革新的な技術を採用していたが、諸般の事情により発売されなかった。もちろんこの車両も自走できる状態で保存してあ

### 【スバルビジターセンターの利用案内】

所在地：群馬県太田市庄屋町 1-1

申込方法：見学の一週間前までに電話またはFAXで受付(先着順)

申込先：スバルビジターセンター

TEL：0276-48-3101 FAX：0276-48-3102

開館時間：9：00～17：00(入館は16：00まで)

見学内容：工場説明ビデオ鑑賞、展示ホール、リサイクルラボ、テクノラボ、FHIギャラリーの見学

※工場見学は生産ラインの操業日に限り希望者のみ可能

工場見学開始時間：9:30～、11:15～、13:00～、

